

SERI NEWS RELEASE

平成 24 年 7 月 25 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 24 年 7～9 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「7～9 月期の見通し」は、『横ばい』が 17 業種、『やや下降』が 3 業種～

□平成 24 年 6 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（4～6 月期）の業況は、『順調』が 1 業種、『普通』が 4 業種、『低調』が 11 業種、『不調』が 4 業種となり、総じて景気停滞が続いている。

□7～9 月期の見通しについては、20 業種中、『上昇』『やや上昇』を見込む業種はなく、17 業種が『横ばい』、3 業種が『やや下降』となった。個人消費は冷え込みが続き、欧州の信用不安や新興国の成長鈍化で輸出環境も厳しいことなどから、県内産業景気は回復の足がかりをつかめそうにない。

担当：研究部 岩間

特需の反動と消費刺激策の終了で 軟調続く県内産業景気

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成24年4～6月期）の業況は、『順調』とする業種が1業種、『普通』が4業種、『低調』が11業種、『不調』が4業種となり、「自動車販売」以外の業種は、総じて景気停滞が続いている。

前回調査との比較では、震災の影響が薄れ、外での飲食の機会が増えつつある「外食」と、新東名開通により一部で客足が伸びた「観光・レジャー」が『不調』から『低調』に1ランク上昇した。一方、欧州完成車市場の不振の長期化を受けて、「二輪車部品」が『低調』から『不調』に1ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成24年7～9月期の見通しは、20業種中、『上昇』『やや上昇』を見込む業種はなく、17業種が『横ばい』、3業種が『やや下降』の見通しとなった。

業種別にみると、高い受注水準を維持する「工作機械」、白物家電の省エネ機種への買い替え需要が下支えする「民生用電器部品」、リーマン・ショック以降の人員・設備削減が奏功し高稼働率を維持する「自動車部品」の3業種が、『普通』のまま『横ばい』の見通し。また、贈答・家庭需要の回復の足取りが鈍い「製茶」、海外製品の流入や在庫圧縮のために減産を続ける「家庭紙」「産業用紙」、前年の大型分譲マンション着工増加の反動減が見込まれる「住宅」、消費者の節約志向の強まりから低価格化が進む「大型小売店」「食品スーパー」「外食」「観光・レジャー」、燃料価格の上昇で経営圧迫が懸念される「運輸・倉庫」、製造業向け案件の需要回復が遅れている「情報サービス」の計10業種は、『低調』のまま『横ばい』の見込み。さらに、国内外ともに需要が落ち込んでいる「二輪車部品」、民間、公共向けとも着工減少が続く「建設」、昨年地デジ移行前の駆け込み購入でテレビの需要が一巡した「家電量販店」、省エネ・環境関連以外は動きが乏しい「リース」の4業種では『不調』のまま『横ばい』の見通し。一方、エコカー補助金の終了で影響が必至な「自動車販売」は『順調』から『やや下降』が避けられないとみられ、原料価格の上昇が予想される「食品・飲料」も『普通』から『やや下降』の予想、さらに、自動車関連分野の需要が厳しくなりそうな「人材派遣」は『低調』から『やや下降』の見通し。

なお、半期調査業種では、中・高級家具の需要低迷が続く「家具」、欧米市場での不振が懸念される「楽器」とも、『低調』のまま『横ばい』の見通し。



昨年の震災後の省エネ関連特需や地デジ移行に伴い発生したテレビの駆け込み需要の反動減に加え、エコカー補助金や一部の住宅エコポイント制度など消費刺激策の終了、さらに電気料金値上げと夏の電力不足懸念など今期は個人消費にとって逆風が多い。また、超円高や欧州の信用不安、新興国の成長鈍化で輸出環境の回復も見込み難いことから、県内産業景気は回復の足がかりをつかめそうにない。